

見出し：日本は自らの歴史的経験から、核兵器のない世界秩序の構築を決意した

第二次世界大戦後、毎年8月は常にも増して原子爆弾によって亡くなった人々や破壊された広島、長崎を想起させる。8月6日と9日は日本国民の集団的記憶として刻まれているだけでなく、平和と核兵器のない世界を希求する人々にも深く刻まれている。原爆投下から70年を迎える今年、新任の小川日本国大使にインタビューした。

1. (原爆により多くの尊い命が失われた日が近づいてきたが、この不幸な出来事が世界に伝えていること如何との問いに対し) 唯一の被爆国として、日本は核不拡散と核廃絶に向けた動きを重視している。広島出身の岸田外務大臣は核保有国のリーダーに両都市を訪れることを、また若い人には原子爆弾の現実を自分の目で見るよう提唱している。

2. (天皇と日本国の名において多くの罪が犯され、日本の敗戦として終結した戦争から70年経ったが、1930年又は40年の犯罪を日本の若い世代はどのように扱っているのかとの問いに対し) 安倍総理は2年前に談話を発表した。〈以下、平成25年12月26日付総理談話～恒久平和への誓い～より「日本は、二度と戦争を起こしてはならない」から「今後、その責任を果たしてまいります」まで引用〉日本国民はこの考えを共有し、平和へ向かって歩むことを決意した。

3. (日本が軍事力の再構築をしているとの印象を受け得る。二つの島についての中国との論争に起因している部分があるとみられるが、日本と日本国民のこの事態への対処振り如何との問いに対し) 21世紀はグローバル化に伴って急激なパワーバランスの変化がある。北朝鮮による核・ミサイル開発に代表される日本周辺の安全保障環境はますます厳しくなっている。国際テロやサイバー攻撃など技術進歩により国境を越える脅威も増している。

現在、いかなる国も一国だけで自国の平和と安全を維持できない。日本は、自衛隊を含め、国連平和維持活動のような国際平和と安全の維持・回復に最大限貢献してきた。平和国家として継続的な努力を行いつつ、日本政府は安全保障法制の発展を含む安全保障政策について様々な取り組みを行っている。

現在、国会で平和と安全に関する新たな法案が審議されている。この新法案は(1)日本人の生活と平和を確保するためいかなる状況においても絶え間なく対応することおよび(2)国際社会の安定と平和への日本の貢献を可能にする。

中国との間で論争となっているのは尖閣諸島であるが、尖閣諸島が日本固有の領土であることは、歴史的にも国際法上も明らかであり、現に日本は尖閣諸島を有効に支配している。尖閣諸島をめぐる、解決しなければならない領有権の問題はそもそも存在しない。

4. (貴使はとても恵まれた先進国の生まれだが、ボスニア・ヘルツェゴビナ(以下BH)とこの国の人々、この国を取り巻く状況をどう見ているかとの問いに対し) BH

は素晴らしい景観のある美しい国である。鉱物、エネルギー、農業、製造業、観光などの分野に大きな潜在能力があるが、これらは十分に開発されていない。BHには民族や歴史的不幸を超えて人々を束ね開発に向けて邁進する強いリーダーシップを持った政治家が必要だ。若者が仕事とより良い生活を求めてこの国を去っていくのは悲しいことである。この国のリーダーにとって最も重要なことは、この国の将来を担う若者に夢と希望を与えることである。

5. (BHと日本の外交関係は1996年に樹立され友好関係にはあるが、経済関係はとても良いというわけではない。その理由及び日本企業からの投資誘致方法如何との問いに対し) BHと日本の関係は素晴らしく、来年は外交関係樹立20周年に当たる。日本はBHの重要な開発パートナーの一つで、これまでに洪水被害への2700万KMを含む10億KMを支援している。しかしながらこれまで日本企業からの投資はない。相対的に市場規模が小さいことに加え、日本企業は未だ90年代の紛争のネガティブなイメージを持っている。先に述べたとおりBHは間違いなく潜在能力を持っているので、例えば、日本からの経済・投資ミッションの派遣などを通じて日本企業からの投資を実現できるようベストを尽くすつもりである。

6. (数ヶ月前、貴使はこの国の開発計画の遅れと洪水復興計画の迅速な策定がなされないとして政治家を強く非難したが、この批判はこの国に届いたと思うかとの問いに対し) その批判は私の前任者によるものである。私は2ヶ月前に着任したばかりで、この国について断定的なことを言うには経験が不足している。ただし、在任期間の短さに関係なく、リーダーシップは政争ではなく国民の福祉のためにとられるべきだと言うことはできる。

7. (日本文化は世界的に認められており、多くの若者がとりつかれている。文化の普及促進の利点如何との問いに対し) 浮世絵がモネやゴッホのような画家によって脚光を浴びたように、実のところ、日本文化の価値は外国人によって見いだされてきたといえる。

日本政府は自国の文化を積極的に宣伝していなかったし、それほど多く投資もしていなかった。しかし近年、日本のアニメや漫画、Jポップといったクール・ジャパンが人気を集めるようになり、我々は日本の文化をより理解し、親しんでもらうためにこの傾向を促進するよう努めている。東京や京都だけでなく、日本には魅力的な場所が沢山あり、ここ数年、日本への観光客が増加している。ようこそ！ジャパン(注：この部分ボスニア語)

8. (日本で最も有名なボスニアの著名人如何との質問に対し) いずれもサッカーコーチのオシム監督とハリルホジッチ監督である。自分はボスニア映画の「ノー・マンズ・ランド」と「グルバビッツァ(注：サラエボの花)」を見たが素晴らしい映画であり、歌手ではKemal MontenoとDino Merlinを知っている。

9. (最後に、安倍総理はローマ法王を日本に招待したが具体的なスケジュール如何との問いに対し)日本政府と日本国民は法王の日本訪問をお待ちしているが、法王のスケジュールはタイトで、時期は決まっていない。